

平成26年度男女共同参画講演会(住田裕子さん)講演概要

新宮市では平成27年2月20日、新宮商工会議所において弁護士の住田裕子さんをお迎えし、「変わりゆく社会の中で 守りたい いのちと心」をテーマに講演会を開催しました。テレビでもおなじみの住田さんのユーモアを交えながらも分かりやすいお話しに、来場された約230人の皆さんは、熱心に耳を傾けていました。

また、アンケートも実施し、約69%の方からご協力をいただきました。その中で、「とっても良いお話でした」「楽しく聞けました」「大変勉強になった」「共感性を大事にしたい」などの感想が寄せられています。詳しくは、一覧表のアンケート欄をクリックしていただきますと、アンケート集計結果のPDFファイルがご覧いただけます。



住田さんは、「変わりゆく社会の中で 守りたい いのちと心」をテーマに講演し、子育てと仕事の両立のほか、いのちを守るための対人関係能力と共感できることの力の重要性と、その養い方などを話しました。

また、自分の生活史を振り返る中で、大学進学を志した際に周囲から「ええとこのお嫁になった方がいい」と反対されたことや、その後、苦学し東大に進学。進学後、司法試験でも苦労したことなどを語った。検事に任官後、仕事に苦しみ辞意を思い描いた経験もあったが、「検事を辞めると、弁護士も務まらないだろうし、検事の夫婦であるという世間の目『子育てと仕事の両立』を心掛け、周囲の人々の力を借りて子どもを育てた」こと、『だから無理』という固定観念を超えた実践を語りました。



講演テーマの『いのちと心』に関して、今年1月の名古屋大学の女子大生による殺人事件、2月の紀の川市の男児殺人事件などを例に「彼らは罪に問われない精神病ではなく、性格の歪みなので裁かれます。共通する問題は、他者の痛みを自分のことのように引き受ける『共感性』や『対人関係能力』が希薄なこと」と述べました。

また、「自分が悪い時に『ごめんなさい』、うれしいことがあった時に『ありがとう』と言えることが社会の潤滑油。共感とは、共感できる人から伝わる。共感できる人らの間で子どもを育てることは大事」と話しました。

住田さんは、活躍できる人の資質についても述べ、必要なのは、やる気・熱意など「諦めない心」、条件が変わっても努力し続けるような「忍耐力」、人の話を聞くことのできるような「謙虚さと柔軟性」の3つをあげました。

講演する住田裕子さん（新宮商工会議所） 平成27年2月20日（金）